

いちごのアザミウマ類の適切な防除を行い、 春先の被害増加を抑えましょう！

今作のいちご本ぼでのアザミウマ類の発生は、10月から11月にかけて少なく推移しましたが、12月以降、平年並となり、2月の発生ほ場率は18%（平年比106%）、寄生花率は0.6%（平年比50%）です（図1）。ハウス内の温度が高くなるこれからの時期は、本害虫の活動が活発になり、発生量も増加しやすいため、被害が大きくなる恐れがあります。本害虫は、多発してからでは被害を防ぐことが困難になるので、花や果実をこまめに観察して少発生のうちに防除しましょう。

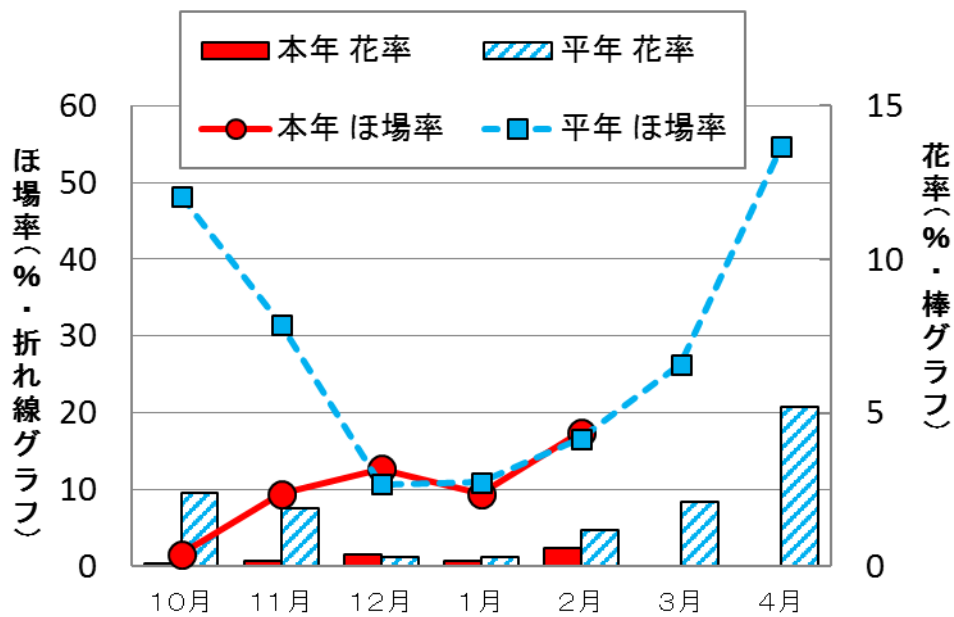


図1 巡回調査による果実加害性アザミウマ類
発生ほ場率・花率



写真1 幼果の被害果



写真2 ヒラズハナアザミウマ
雌成虫（黒色）と雄成虫（黄色）

◎防除対策

- ・ハウス内外を除草し、発生源をなくす。青色粘着トラップを設置することで、侵入状況を早期に把握する。
- ・表1を参考に薬剤を散布する。本害虫の発生初期から IGR 剤やベネビア OD を散布する。また、幼果に褐変（写真1）が、ほ場内で僅かでも見られる場合は、直ちに防除が必要である。
- ・1割以上の花で本害虫（写真2）が見られるときは、速やかに防除する。ディアナ SC やスピノエース顆粒水和剤等、成虫にも効果の高い薬剤も使用する。
- ・多発時には、薬剤がかからない卵や蛹が混在し、防除が難しくなる。IGR 剤の散布から約5日後に、スピノエース顆粒水和剤等を追加散布することで、高い防除効果が得られる。
- ・ハウスの換気量が増大する時期になると、ハウス外から大量に成虫が飛び込んで来るので、成虫にも効果の高いアードント水和剤やグレーシア乳剤等を散布する。天敵への影響が長期間残るため、これらの薬剤の使用後は、天敵を放飼しないよう注意する。



写真3 果実を加害する
アザミウマ類幼虫

表1 いちごのアザミウマ類で適用がある主要薬剤（令和2（2020）年2月12日現在）

薬剤系統名	農薬名	防除の対象	収穫前日数	天敵カブリダニ類との併用	ミツバチ影響日数	IRACコード*3	使用回数	殺虫効果
IGR (ベンゾイル尿素)	カウンター乳剤	幼虫	収穫前日まで	可	1日	15	4回以内	遅効性、 残効長い
	マッチ乳剤*1	幼虫	収穫前日まで	可	1日	15	4回以内	
ジアミド	ベネビアOD	成虫・幼虫	収穫前日まで	可	1日	28	3回以内	遅効性、残効長い
スピノシン	スピノエース顆粒水和剤	成虫・幼虫	収穫前日まで	*2	3日	5	2回以内	速効性、 残効長い
	ディアナSC	成虫・幼虫	収穫前日まで	*2	3日	5	2回以内	
ピレスロイド	アードント水和剤*1	成虫・幼虫	収穫前日まで	不可	2日	3A	4回以内	速効性、残効長い
イソキサゾリン	グレーシア乳剤	成虫・幼虫	収穫前日まで	不可	1日	30	2回以内	速効性、残効長い

*1 適用病害虫はミカンキイロアザミウマ。

*2 天敵カブリダニ類に影響があるので、天敵を放飼してから1か月後以降に使用する。

*3 IRACコードが同一のものは作用点が同じなので、薬剤抵抗性発達回避の観点から連用を避ける。

○いちごのアザミウマ類に登録のある薬剤の感受性検定結果を当センターホームページ（HP）に掲載中です。（[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)）

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターHP（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。